

□請願陳述；2025年12月26日、土木交通委員会にて

—道路建設を取止め、授かった相生山緑地を今のまま一塊で残すことを求める件—

請願理由を述べさせていただきます。COP10で道路工事が中止された15年間で地球環境は、益々、深刻な事態が顕在化されてきました。この気候変動、生物多様性などの環境問題を解決するための学問分野として「環境倫理学」は、高校の教科書に載せられています。この基本主張は①自然の生存権②世代間倫理③地球全体主義であります。この名古屋市の置いては、第4次環境基本計画を策定し「環境の保全」の施策を進めており、更には、「地球温暖化対策実行計画2030」が策定されています。

道路工事再開で逆行させてしまはなりません！　道路ができるとどうなってしまうのか？  
地元の人たちの不安と危機感の声、学生さんたちの緑地に対する危惧の声が届いています。11年前の市民アンケートでも近々のアンケートでも「緑地」を残してほしいとする人たちが7割から8割になっています。市民の意向、地元の意向を十分に確かめる必要があります。また、道路の必要性に対して、令和3年の学術検証懇談会で専門家から出された「必要な短縮なのか、必要な効果なのか」の検証は未だ行われていません。新たな渋滞や騒音・振動・空気汚染や交通事故等の生活環境の調査も行われていません。

そして、ヒメボタルは生物多様性の象徴的存在として知られています。ヒメボタル生息地とそのヒメボタルは後世に引き継がなければなりません。道路建設による樹木の伐採、土壌の改変などによる影響や車の走行による振動によって、土壌に棲む生きものたちへの影響などヒメボタルの生育調査の検証が欠かせません。どうかこれらの調査・検証を行い、慎重審議をお願いいたします。

——工事再開の撤回を求めるオンライン署名も20日余りで約2800名もの賛同を得ています。どうぞ一緒に「配慮する」ではなく、ヒメボタルの相生山を守ってください！　一市民の会一